

秋冬作露地野菜の可給態窒素レベルに応じた窒素施肥量の簡易算出法

可給態窒素レベルに応じて、土壌から供給される窒素量を推定し、窒素施肥量を加減

背景・目的

- ・可給態窒素レベルを考慮せず、施肥基準に基づき一律に施肥されている場合が多い
- ・可給態窒素レベルに応じた窒素施肥によって露地野菜生産の高位平準化を図る
- ・可給態窒素レベルに応じて施肥基準から窒素の増減量を算出できる窒素施肥量算出シートを作成

成果の内容

地域名	九州・沖縄	黄色のセルだけ操作してください
県名	鹿児島	
土壌の種類	黒ボク土	
施肥	10月	上旬
収穫	翌年5月	上旬
栽培期間の30°C換算日数は	36.2日	= 5.2週間
窒素施肥基準	15	kg/10a
可給態窒素	4.5	mg/100g乾土
窒素発現量	9.8	kg/10a
可給態窒素 1mg/100g が窒素施肥	2.2	kg/10aに相当します

『窒素施肥量算出シート』

- ・土壌の種類、施肥及び収穫時期を選択
- ・施肥前に測定した可給態窒素量を入力
- ・栽培期間中の土壌窒素無機化量を自動計算
- ・窒素施肥量算出シートは農業開発総合センターホームページからダウンロードできる



導入メリット

可給態窒素レベル(1~5mg/100g乾土)に応じて増減した推奨窒素施肥量を提案

可給態窒素レベルと窒素施肥量

可給態窒素(mg/100g)	1	2	3	4	5
窒素の増減量 (kg/10a)	4.4	2.2	0.0	-2.2	-4.4
推奨窒素施肥量 (kg/10a)	19.4	17.2	15.0	12.8	10.6
増減率 (%)	129	115	100	85	71

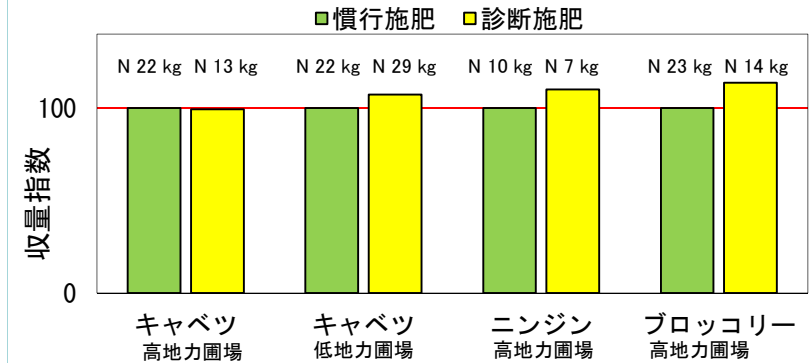


図 可給態窒素診断に基づく診断施肥の野菜収量

- ・可給態窒素診断結果に基づいて窒素施肥量を加減することにより、安定した収量を確保
- ・キャベツ、ニンジン、ブロッコリーで、慣行施肥と比較して収量は同等以上と、有効性を確認

期待される効果

露地野菜での適正施肥の推進による安定生産と肥料コスト削減

普及対象・範囲 県内露地野菜生産者